

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070700689
法人名	特定非営利活動法人グループホームやまびこ
事業所名	グループホームやまびこ
所在地	福岡県北九州市八幡西区町上津役東三丁目10番16号 (電話) 093-614-2910

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年8月8日	評価確定日	平成19年9月11日

【情報提供票より】 (平成19年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 3月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算 10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造かわら・亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,950 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年7月24日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八幡慈恵病院・三浦整形外科内科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄りの駅から車で10分程度の住宅地に事業所は位置し、森林に囲まれた静かな環境である。開設から7年を経過し、運営者等の努力により地域に根付いている。地域住民のボランティアや学生ボランティアも多数受け入れている。利用者は地域の中に溶け込んだ、落ち着いた生活が営まれている。地域との良好な関係を活かして、現在、地域向けの介護相談窓口の設置等も準備している。また、開設当初からの利用者もあり、利用者の機能低下の進行はあるものの、運営者等、スタッフの努力によって、利用者の安定した生活が維持されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、救急対応については教育を行い、状態変化や緊急時に迅速に対応できるよう具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を職員で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催している。地域住民、家族、学識経験者、行政職員が参加し、取り組みの状況を報告するとともに、地域向けの介護相談窓口の設置等の新しい取り組みへの提案が、委員から行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置したり、請求時に意見や要望を書いてもらう用紙を同封して来訪時に箱へ投函してもらうよう呼びかける等、意見集約に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域行事に参加するとともに、ホーム便りを通じて地域への浸透を図っている。地域の人々が、日常的にボランティアとして事業所の活動に参加し、また、近隣の学校との交流や高校、大学のボランティアも受入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員を交え、利用者の意見を参考にしながら、事業所独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングや不定期の臨時ミーティングの際に理念にそって話し合う他、新任教育において、周知を図っている。壁面に掲示し、毎朝、利用者と共に唱和し、浸透を図っている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域行事に参加するとともに、ホーム便りを通じて地域への浸透を図っている。地域の人々が、日常的にボランティアとして事業所の活動に参加し、また、近隣の学校との交流や高校、大学のボランティアも受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員で話し合いながら取り組んでいる。前回評価での改善課題について、救急対応については教育を行い、状態変化や緊急時に迅速に対応できるよう具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。地域住民、家族、学識経験者、行政職員が参加し、取り組みの状況を報告するとともに、地域向けの介護相談窓口の設置等の新しい取り組みへの提案が、委員から行われている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体主催及び他の研修の講師や実習受け入れ等により、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を揃え、職員及び家族の周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回、ホーム便りを発行している。また、月1回、状態報告の手紙を送付している。状態変化等が見られる場合は電話で報告し、電話での状態伺いには24時間対応している。金銭管理については立て替え金で対応し、月1回領収書を添付して利用明細を送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見交換を行ったり、職員と直接話し合う機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置したり、請求時に意見や要望を書いてもらう用紙を同封して来訪時に箱へ投函してもらうよう呼びかける等、意見集約に取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑え、また同法人の他事業所との交流を活発に行い、事業所以外の他事業所の職員とも馴染みの関係作りを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたって、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、法人の規模拡大に伴い昇進の機会を増やしたり、資格取得の支援をしている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一部職員が人権に関する研修に参加しており、その資料を揃え、閲覧できるよう事業所で保管している。他の職員へは、研修内容を報告し、周知を図っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>他事業所との相互交流や外部研修に参加するとともに、研修参加者は報告書を作成し、資料とともに閲覧できるようにしている。また、ミーティング等において、口頭での研修報告も実施している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入している。他事業所との人事交流により、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人の認知症デイサービスの利用や見学、面談等で関係作りを行いながら、家族との相談もを行い、安心できる環境や関係作りに取り組んでいる。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が利用者と一緒に花壇作りや菜園での作業を行ったり、買い物等の家事的作業を行い、一緒に行動し、共に支え合う関係作りを行っている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望を聴き、選択肢を提示して意向を確認している。家族から情報収集を行い、日常の行動から、思いを把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティングや必要に応じての臨時ミーティングを通して、全職員で家族からの意見等の情報を共有し、ケアのアイデアを出し合い、介護計画に反映している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、ミーティングでモニタリングを実施し、計画の継続または変更の必要性を話し合っている。計画は概ね6ヶ月で見直しを行い、変化がある場合はその都度見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院の場合、医療機関と話し合いながら、退院に向けた支援や入院中の居室の確保を行っている。また、在籍保証が困難な場合でも、退院後、系列の別事業所で一旦対応するなど、柔軟な支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科及び外科については、本人や家族に説明して了承の上で、事業所の協力医療機関での受診を支援している。他科については、希望に応じた医療機関への受診を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、職員、医療関係者の意見調整を十分に行い、家族とも話し合っており、全員が方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護、守秘義務については採用時に十分に説明を行い、誓約書を取っている。日常の介護場面においてもプライドを傷つけないような対応、声かけ等に留意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活で朝の体操等は日課として行っているが、その後は一人ひとりの希望や意向により、思い思いの過ごし方ができるよう対応している。活動参加や入浴の希望についても、その都度意向を確認しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じ献立を同じテーブルで摂りながら、その人の摂取状況に応じた声かけ等により、対応している。利用者の状態に合わせて、補助食品も利用する等している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は、事業所の都合でなく、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否の利用者に対しては、声かけ等で入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	黒板に日付を書く、掃除、おやつ作り、絵を描く等、力を活かした役割、楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、毎日散歩や買い物を支援している。週2回以上のドライブや旅行、遠出の外出等、ボランティアを導入しながら戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。職員は外出傾向を把握しており、近隣住民にも説明や声かけを行い、協力を得ている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき、年2回に非常災害訓練を実施している。そのうち1回は消防署の協力を得て実施して指導を受け、地域の人々も参加している。非常用食料や備品を確保している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの具体的な食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。摂取量が極端に低下している場合は、補助食品等も利用し、栄養バランスに配慮している。	○	最低年1回は、医師や栄養士等からのアドバイスを受け、必要十分な栄養摂取が行えるよう取り組んでほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品は家庭的なものを使用し、寛げる雰囲気作りを行っている。窓側にはウッドデッキがあり、直射日光が当たりにくい構造である。テレビの音や職員の声は適切で、耳障りなざわつきは聞かれない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談の上、家具や生活小物などを持ち込み、思い思いの居室空間を作るよう取り組んでいる。		

※ は、重点項目。